

「つぼみ」細目(一)

自第壹開至第五開

山内祥史

「つぼみ」に関しては、すでに故辻橋三郎教授によって調査され、「日本近代文学と神戸女学院——『つぼみ』から『めぐみ』へ——」(『神戸女学院百年史 各論』神戸女学院、昭和五十六年三月十二日)と題する、詳細な研究も発表されている。したがって、ここでは、贅言を加える愚はさしひかえ、辻橋教授によって蒐集され、現在神戸女学院大学図書館にその複写が所蔵されている「つぼみ」の細目を掲げ、教授の遺志を生かす縁としたい。

第壹開 明治廿三年一月三十日発行
発行の主意

会説

「つぼみ」生ず

女子と文学

花壇

「つぼみ」てふ雑誌の生れたるを祝す

神戸英和女学校生 柴田

女子ノ本務

梅花女学校本科一年生

米 六〇七

七〇八

勉強ノ説

女文会創立ヲ祝ス

梅花女学校本科一年生

知疾風勁草説

同志社女学校生

蕾ノ発兌ヲ祝ス

梅花女学校本科一年生

聴虫記

同志社女学校生

蕾の発兌を祝ふ文

梅花女学校予科二年生

八〇九

九〇十

十

十〇十一

十一〇十二

十二

菊 同志社女学校生 十二〜十三
寒梅ヲ観ル記 十三

新鷲ノ説 梅花女学校本科一年生 十三
梅花女学校本科二年生 十三〜十四

名宛 「つばみ」に就て 新島八重子 十四〜十五
祝詞(和訳) 同志社女学校教師 エフ、グリスナルド女史 十五

「つばみ」てふ雑誌の生れたるを祝す 十六〜十七
神戶諏訪山 星野忠直

説林 家族 十七〜十八
理科 NS女史 十八〜十九

英国某婦人より日本婦人に贈る書 十九〜二十一
小女の祈禱 二十一〜二十二
心算に巧みなる小女 二十二

遺芳 純孝 麻雅烈都、魯巴小伝 二十二〜二十六
淑美 謝録多、可爾的小伝 二十六〜二十九

化植 保土孫河畔の一小郷 アーヴィンク作 二十九
古代の詩聖と近世の歌仙 ジョンソン作 二十九〜三十

文華 祝女文会序 堀口猶存 三十
擬・祐成時致復讐夜贈・母書 牧原直亮 三十〜三十一

祝・舊發兌 川野松山 三十一

雪江夜泊 他 菅 鷹川 三十一〜三十二
偶成 阪本右泉 三十二

客舎開雁 元旦 前神松枝 三十二
つばみのほぎ辞 川本 英 三十二

三女の集合 ちまひ 宮垣暢丸 三十二〜三十三
つばみの發行を祝ひて 梅の舎 三十三
つばみの發行を祝ひて 立石ひさ 三十三〜三十四

和歌 高吉・松風窟主人・津田久之・湯谷 矢上歌子 三十四
磋一郎・前神松枝・矢上歌子・奥田 讓子・吉田近子・兒嶋寿代・平野糸 子・村上貞子・木谷せい子・黒川君子 三十四〜三十六

記要 子 三十七〜三十八
會員名簿 一〜四
女文会々則

会告 第三開 明治廿三年二月廿五日發兌
發行之主意
会説

本邦女学の標準如何
「基督教青年」を読む
花壇

蕾ノ發行ヲ祝ス
同志社女学校予備科三年生 望月 直 一〜二
桃李成蹊説 五〜六

同志社女学校予備科三年生 望月 直 五〜六

梅花女学校本科三年生
事ノ成否ハ志ニ在リ
六〇八

英和女学校 木村のぶ子

観雪記
八〇十

同志社女学校本科二年生
つばみノ発兌ヲ祝ス
一〇十一

梅花女学校本科二年生
十一〇十二

観雪記
十二〇十三

同志社女学校本科二年生
送ニ某氏遊ニ米利堅ニ序
十三〇十四

梅花女学校本科一年生
蕾ノ発刊ヲ祝ス 英和女学校生 佐野みち
十四〇十六

梅説 同志社女学校本科一年生
十六

寒夜読書ノ記
十六

梅花女学校本科二年生
十六〇十七

祝本誌之発刊
十七〇十八

同志社女学校予備科三年生
月夜梅園ニ遊ブノ記
十八〇十九

梅花女学校本科二年生
一

観梅記
十九〇二十

同志社女学校本科一年生
読ニ沁仁之記
二十

梅花女学校本科一年生
青年女子ノ将来
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

梅花女学校本科一年生
二十〇二十一

女子高等教育の障碍 エー・ドーデー女史
二二三〇二五

説林
家族(承前)
二五五〇二七

盲啞聾の二幅対
二七五〇二九

ハーデー氏より新嶋大人に寄する書
二九五〇三〇

吊東長女
今 吉生
三〇五〇三一

遺芳
北予学人
三一五〇三三

女傑 謝録多可爾的小伝
うるわし
三二五〇三四

移植
なきけ
三三五〇三五

女尊男卑の家庭
なきけ
三三五〇三五

真情
なきけ
三三五〇三五

信憑
なきけ
三三五〇三五

文華
星野忠直
三五五〇三六

鴨長明方丈記
星野忠直
三五五〇三六

虎のねむれる図にかきつけたる／早梅
宮垣暢丸
三六五〇三六

友人の某学校を卒業せしを祝ふ
立石つね
三六五〇三六

松
荒木やす
三六五〇三七

和歌
池袋清風・志垣要三・堀口 良・柴
三六五〇三七

田米子・足立数子・佐藤花子・藤岡
千香子・鯛中八重子・坂本信古・前
神松枝・立石常子・荒木安子・好本
千枝子・立石久子・大塚きな子・奥
田譲子・吉田近子・児島寿代子・村
山小梅・矢上歌子・吉田数子・黒川
君代・岡田墨江
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

代人祝ニ浪華教育倶楽部創立ニ
三六七〇三九

読、説難、

西郷隆盛 他

入春不暖

代、某母ニ送、愛女ニ東都ニ

記要

特別会告／会告

第三開 明治廿三年三月二十日発兌

会説

女学校の醜評

雲峯子の好意

花壇

時勢ニ随テ社会ノ吾人ニ求ムル所異ナレリ

廃学せし友の父に送る文

音楽生ノ心得(英文和訳)

神戸英和女学校本科四年生

史ヲ読ンデ感アリ

蕾ノ発刊ヲ祝ス

学ニ怠ル友ニ与フル書

心ノ貧しき者は福なり

神戸英和女学校本科二年生

吉田きよ

三十九〜四十

四十

四十

四十

四十一

四十一〜四十二

願クバ竹ト梅菊トノ操ニ倣ハン

梅花女学校本科四年生

冬夜読聖書記

山陽英和女学校生

鶯説 梅花女学校本科一年生

諏訪山ニ登ルノ記

英和本科一年生 大井上つな

桜花ヲ観ル記

梅花女学校本科一年生

名苑 女生徒に關する風聞の批評如何 本間重慶

女子高等教育の障碍(承前) ドーデー女史 二十一〜二十二

説林

家族(承前)

小女の愛国心

孝順

攪眠術

ペダレストス

和順 数／算術

ドクトル、スガ、ブレイン 記

代数 梅花女学校 G.S.女史授

幾何学 竹弄生授

理科(承前) NS女史

遺芳 メレー・サマビイル略伝

弘国 謝録多可爾的小伝(承前)

移植 北予学人

あだな楽しみ

うるわし

三十二

警慎

三十二

可憐婦

三十三

文華

鴨長明方丈記(承前)

星野忠直

三十三、三十四

観梅記

梅花女学校生

三十四、三十五

和歌

宮垣暢丸・金森通義・真砂子・堀口良平・岡春範・光藤高雄・原栄子・西山茂子・荒木安子・児嶋寿代・黒川君代・藤枝良子・津枝静子・平野糸子

遊桜祠記

梅花女学校本科一年生

九

良平・岡春範・光藤高雄・原栄子・西山茂子・荒木安子・児嶋寿代・黒川君代・藤枝良子・津枝静子・平野糸子

女子教育者に望

神戸英和女学校本科二年生 藤本せつ

十、十一

子・西山茂子・荒木安子・児嶋寿代・黒川君代・藤枝良子・津枝静子・平野糸子

観雪記

同志社女学校生

十一

子・平野糸子

何ヲカ真正ノ勇氣トナス

梅花女学校本科四年生

十一、十四

松説 他

堀口猶存

三十五、三十六

野遊

神戸英和女学校本科一年生 中村じゅん

十四

樵夫詞

菅鷹川

三十七

梅説

同志社女学校生

十五

春日偶成

前神松枝

三十七

愛梅記

梅花女学校本科二年生

十五、十六

遊水辺

荒木安女

三十七

如何にして春期休業を消さん

神戸英和女学校予備科二年生 赤木みさほ

十六

鶯

兼松琴女

三十七

雲雀

同志社女学校予科生

十七

閑居聞鶯

矢上歌女

三十七、三十八

遊桃花園記

梅花女学校本科一年生

十七、十八

記要

特別会告

入会報告

花見誘引の文

予備科一年生 鈴木幸重

十八

会告

女文会々則摘要

吉野山ニ遊ブ記

梅花女学校予科二年一期生

十八

会説

第四開

明治廿三年四月二十一日発兌

名苑

蕾ヲ祝ス

十八、十九

花壇

本紙の方針に対する希望

増野悦興

落第せるものは福なり

鳥取英和女学校教師

十八、十九

一六

三十三

三十三

三十三

三十三

梅花女学校教師 川野健作 十九〜二十
「つばみ」を讀て 在新潟 率直生 二十〜二十一

説林

家族(承前)

優美の本源

モリス氏夫婦

燐爛

水気の變体

数学問題

竹弄生、G. S. 生、点々軒主人、r o 生

遺芳

勳勉 成功 英利沙別、嘉多夫人略伝

まこと訳

移植

加拉太の寡人

夫婿の所望

光と蔭

競争文欄

青年女子小説を讀むの利害

同志社女学校予科生

文華

方丈記ぬきは

観梅記

和歌 金森通義、村山とし、竹友梅代、そ

れがし、成瀬四寿、讀み人しらず、

盈進

題蕭何追韓信図 他

武州小金井観桜 他

花月闌^{ハスナ}妍

題「蕾雜誌」

山陽英和女学校教師

万波 栗 荒木安女

雨夜閑居

同志社女学校生

記要

同盟姉妹校々況、神戸英和女学校英和文学

会景況、神戸英和女学校文学会評判(長陽

子)、アツケルマン嬢の来坂、松山高吉書翰

入会報告

女文会々則摘要

特別会告、会告

第五開 明治廿三年五月二十日発兌

会説

青年女子小説を讀むの利害

花壇

山吹 鳥取英和女学校生徒

雲と嵐とは反つて月と花との価値を貴ぶるものなり

多言不^レ成^レ功説 同志社女学校

新聞購読を友人に勧むる文

神戶英和女学校予備科一年生 平野しづ

偕満は身を亡すの基

梅花女学校本科三年生

信仰を勧む文

鳥取英和女学校生徒

堀口猶存

三十七

万波 栗

三十七

荒木安女

三十七

同志社女学校生

三十七

同盟姉妹校々況、神戸英和女学校英和文学

三十七〜四十二

会景況、神戸英和女学校文学会評判(長陽

子)、アツケルマン嬢の来坂、松山高吉書翰

入会報告

三十七〜四十二

女文会々則摘要

三十七〜四十二

特別会告、会告

一〜四

青年女子小説を讀むの利害

四

花壇

四

山吹 鳥取英和女学校生徒

四〜七

多言不^レ成^レ功説 同志社女学校

七〜八

新聞購読を友人に勧むる文

八

神戶英和女学校予備科一年生 平野しづ

八〜九

偕満は身を亡すの基

九〜十

花在樹間ニ尊 同志社女学校生
雨中桜を見て感あり

十ノ十一

梅花女学校本科二年生

十一ノ十二

如何にして春季休業を消さん

遺芳
義烈 阿安、亜須久夫人略伝

三十ノ三十四

神戸英和女学校予備科二年生 本部 富

十二ノ十三

笛説 梅花女学校本科二年生

文華
禁酒、然りと否、子息と娘、女の力、良妻
三十四ノ三十五

ランウセヨ

神戸英和女学校本科二年生 妹尾 安

十三

松と竹と優劣あるや否や

梅花女学校本科一年生

十三ノ十四

諏訪山に登る記

神戸英和女学校予備科二年生 坂田明子

十四ノ十五

友人の病氣を慰むる文

梅花女学校本科一年生

十五ノ十六

楼上梅花を賞するの記

梅花女学校本科一年生

十六

名苑

女子教育につき父母と女子に一言す

兵庫 素行道人(村上俊吉)

十六ノ十七

「つばみ」第四開を読み同志社女生の詩文を評す

文章の四則

京都 花島健起

十七ノ十九

家族(承前)

大阪 阿部政恒

十九ノ二十一

説林

優美の本源

算術問題

竹弄生、今西ゑん、G.S.生、

好美子

二十四ノ二十六

奥田 譲

二十六ノ二十七

二十七ノ二十九

水氣の変体

玉手道尾

二十九

遺芳

義烈

移植

文華

観藤記

和歌

白雲居士・葛岡道香・三木真砂子・

盈進・岡 春範・古武きく子・加

藤はな子・西山しげる・中堀とく

子・平野糸子・村上駒尾・糸子

遊芳野記 其二 他

春晴 他

閑居雜詠 他

落花有感作 他

吊亡友某

探梅

初春散步 他

桃花

記要

松山女学校の新加盟、女学生、戸川小糸嬢

逝、モリス氏一行、コルビー女史、梅花

女学校伝道会記事(続き)、興文会、津田治

郎書翰、海外彙報

本会名誉寄書家諸君姓名

会告/特別会告

三十九ノ四十二